

# 一般社団法人サエグサ&エクスペリエンス

## 2024年度 アニュアルレポート

第1期：2024年8月14日から2025年3月31日まで



### はじめに

#### 理事長ごあいさつ

「子どもは、未来への希望です」

創業から150余年、ギンザのサエグサは”子供服”を通して常にその時代の子どもたちとともに歩んできました。そんな中、現代社会の中で子どもたちが多様なヒトやモノ、コトと出会い、感性をひらく場が少なくなっていることを、深く憂えるようになりました。

そこで私たちは事業転換を図り、さまざまな分野の専門家と連携し、「真の体験」を届けることで、子どもたち一人ひとりの可能性を広げ、気づきを育む場をつくってきました。

2024年10月より、私たちはこの想いをさらに広げるために、「一般社団法人サエグサ&エクスペリエンス」としての歩みを進めました。これからも、子どもたちが夢と希望を持って未来を生きていくために、私たちは多くの皆さまとともに、その環境を創造してまいります。

一般社団法人サエグサ&エクスペリエンス  
理事長 三枝 亮

#### 事務局長より

2024年度は、SAYEGUSA & EXPERIENCEにとって大きな転機の年となりました。運営母体を一般社団法人へと移行し、新たな一步を踏み出した私たちは、これまで以上に「真の体験」を一人ひとりの子どもたちに丁寧に届けることに力を注いできました。

また、2024年度グッドデザイン賞を受賞できたことは、私たちの活動が評価され、「感性を育む」取り組みに共感してくださる社会の存在を確信できた出来事でした。そして、プログラムに参加してくださったご家族からのお声や、子どもたちの目の輝きが、何よりも大きな励みとなっています。

まだ歩み始めたばかりの私たちですが、「子どもの成長に伴走する存在でありたい」という初心を忘れず、日々のお出会いと気づきを大切にしながら、これからも子どもたちの未来につながる体験を創造してまいります。今後とも、私たちの取り組みにご支援とご共感をいただきますよう心よりお願いいたします。

一般社団法人サエグサ&エクスペリエンス  
&E事務局長 澁江 摩樹

### 1. 活動報告

#### 1) &Eプログラム開催の軌跡

SAYEGUSA & EXPERIENCEの運営にあたり、「子どもたちの感性を解き放つ“真の体験”」をテーマに、自然・科学・伝統・文化を融合した5つ※の「&Eプログラム」を開催しました。

(※一般社団法人サエグサ&エクスペリエンスがプログラムの事業運営をした2024年10月からの実績)

#### ● 「銀座の石の探検隊」 (2024年10月6日開催) 募集人数20名・参加者18名

銀座1丁目から4丁目の街を歩きながら、足元やビルの壁面に使われた石材を観察し、「地球の記憶」を辿るフィールドワーク型の体験プログラム。ナビゲーターは地質学者・西本昌司さん(愛知大学教授)。花崗岩、大理石、玄武岩など、何億年も前の地球の営みによって生まれた石の“模様”や“手ざわり”を観察する中で、子どもたちは「石の中の化石探し」に夢中に。大人たちにとっても、このプログラムは新しい銀座との出会い。かつての繁栄の痕跡や、街に込められた素材へのこだわりが、石を通じて浮かび上がり「銀座のもう一つの

顔」に気づく時間となりました。

地質学という専門性と街歩きの楽しさを組み合わせたこのプログラム。街に潜む太古の生命の痕跡に触れ、普段は通り過ぎていた風景が一変するという、子どもにも大人にも「視点が変わる」体験を提供しました。

参加者の声：「この講座を機に、周りを見ながら街を歩くのが楽しくなりました（11歳）」「ふだん見ていた石の中に化石があるなんて驚きでした（10歳）」「銀座の街を「石」という見方で歩いたことがなかったので、親子で楽しむことが出来ました（保護者）」



### ● 「縄文タイムトラベル2024」（2024年10月12日～14日開催）募集人数14名・参加者6名

新潟県糸魚川市・長者ヶ原縄文遺跡を舞台に、2泊3日で実施されたキャンプ型の体験プログラム。ナビゲーターはアウトドアライフアドバイザー・寒川一さん。少人数ならではの濃密な「縄文時間」が流れました。子どもたちは、縄文時代から続く水源から自ら水を汲み、自作のかまどで火をおこし調理。海水を煮詰めて作った塩で味付けした魚の味は格別で、「食べる」という行為が自然とのつながりの中にあることを実感する時間となりました。道具づくりや、石斧、丸木舟といった縄文の技術に触れる中で、“道具とともに生きる”という感覚も体に染み込みました。竪穴住居の中では、仲間と火を囲み語らう時間も。一緒に暮らす中で、協力することの難しさやルールの意味に気づく場面もありました。自然の中での営みは、感性と身体をフルに使う連続。子どもたちは時に戸惑い、笑いながら、自分の手でやりきる達成感を積み重ねていきました。自立心、他者への思いやり、自然への敬意——そうした“目には見えない学び”が、確かに芽吹いた3日間。子どもたちにとって“現代の縄文人”として生きたこの体験は、生涯心に残る旅となりました。

参加者の声：「またここに帰ってきて、今度は一番に火をつけたい（7歳）」「この体験は一生の宝物！（9歳）」



### ● 「お寺で笑おう！～ It's a 落語world」（2024年11月17日開催）募集人数20名・参加者21名

東京都港区・光明寺を舞台に、日本の伝統芸能「落語」を通して“ことばの感性”を育む体験プログラムを開催しました。ナビゲーターは落語家・春風亭昇々さん。普段は静寂の漂うお寺の本堂に、子どもたちの笑い声が響きわたる特別な一日となりました。昇々さんの語りに、子どもたちは次第に引き込まれ、大笑いしながらも、日本語の「音」や「間」「落ち（オチ）」といった言葉のリズムと美しさに自然と気づいていきました。普段の教室や家庭とは異なるお寺の空間だからこそ、感覚がひらかれ、伝統芸能が子どもたちの心にすっと入っていったようです。体験の後半には、親子をあえてシャッフルした即興ワークショップも実施。子どもも大人も高座に上がって、考えたお題で表現に挑戦し、参加者全員で笑いを共有しました。笑うことを通じて他者とつながる、この体験そのものが、日本文化の根底にある“和”を実感する場となりました。

参加者の声：「面白すぎて座布団から落ちちゃった（7歳）」「子供が大人と同じ事を笑えるのだと気が付きました（保護者）」  
「他のお子さんとの関わりが新鮮でした（保護者）」



● 「パワーボイス・シンフォニー in ハッピーホリデー」 (2024年12月22日開催) 募集人数50名・参加者34名

0歳から12歳までの子どもたちとその保護者を対象に開催された、声の魅力と音楽の力を体感する冬のアートプログラム。ボーカリスト・高橋あず美さんの心に響く圧倒的な歌声が会場を包み込み、子どもたちの表情にも感動が広がりました。このプログラムでは、「鑑賞」だけでなく、子どもたちが自ら「声」という楽器を使って音をつくる体験にも挑戦。リズムに合わせて歌い、身体を動かしながら、「聞く・出す・重ねる」音の表現を通じて、自分自身を響かせることの楽しさと気持ちよさを味わいました。大きなステージに立った時の緊張、高揚感そして達成感、仲間と音を重ねた時の共鳴感は、子どもたちの自己肯定感や主体性を育む貴重な体験となりました。

参加者の声：「ステージに上がった時、泣くかと思いきや、ひとりでしっかりと立っていてびっくりしました。親が思っている以上に子供はしっかり成長しているんだと気づくことが出来ました（保護者）」 「じっと座っていられなかった子が、トナカイの歌を大きな声で歌い始めた。歌や音楽の力ってすごいと思いました（保護者）」



● 「太古の海の神秘2025」 (2025年3月1日～2日開催) 募集人数26名・参加者16名

古生物学者・平山廉教授（早稲田大学）をナビゲーターに迎えた、太古の海と生命の記憶に触れる本格的な科学体験プログラム。1日目は早稲田大学の研究室で、恐竜や海洋生物の進化・絶滅に関する講義を受け、約900万年前の岩手・久慈の土から琥珀や化石を探すワークショップを実施しました。平山教授自らが発見したメガロドンの巨大な歯を目の当たりにした子どもたちは、時空を超えた生命の物語に目を輝かせました。2日目は千葉県鋸南町へ移動し、隆起した元採石地層での野外発掘体験を実施。子どもたちはタガネとハンマーを手に、約600万年前の地層からイルカや鯨の歯、サメ類の化石などを掘り出しました。単なる観察ではなく「自らの手で発見する」というプロセスを通じて、科学の本質と自然のスケールを体感する濃密な時間となりました。

講義から発掘までを一貫して経験することで、「地球」「命」「時間」といった壮大なテーマが子どもたち自身の感覚に刻まれた本プログラム。自然科学への興味を育てると同時に、観察力や思考力を刺激する感性教育のモデルケースとなりました。

参加者の声：「妹がレアな化石を見つけていたので途中で、何度かあきらめそうになりました。でも楽しかった。先生はあきらめたことがありますか？（10歳）」 「少しの知識で目の前のモノの見え方がガラッと変わる体験でした。単なる地面が宝の山に見えてくる…。ちょっとしたインプットで人生が変わりそう（保護者）」



◆ 2022年8月～2024年9月までに開催した&Eプログラム（株式会社ギンザのサエグサ運営期間） ◆

開催日程	プログラムタイトル	参加人数	概略
2022.8.27/28	教えない昆虫の学校2022	28名	昆虫の標本を約10万点も所蔵するという「養老昆虫館」と、仙石原の原っぱで、 <b>解剖学者・養老孟司さん</b> と子どもたちが、感性のおもむくままに、自然や昆虫と触れ合う時間を過ごしました。
2022.10.30	はじめまして日本のこころ	15名	<b>宝生流シテ方能楽師・辰巳満次郎さん</b> が伝える古典芸能にこめられた大切なもの。国の有形文化財に指定されている歴史ある代々木能舞台に立ち、能の作法、喜怒哀楽の表現や所作を通じて「日本のこころ」を体感しました。
2022.11.22	感じる音楽会	24名	小さなサロンで行う小さな音楽会。演奏の振動が全て伝わってくるような距離感で、 <b>チェリスト・遠藤真理さん</b> が演奏するチェロの響き。全身が音に包み込まれるような素敵な体験をしました。
2022.秋	あなただけのライブラリー	11名	素晴らしい絵本や本との出会いも、子どもの成長の傍らに寄り添う“ホンモノの体験”です。 <b>ブックディレクター・山口博之さん</b> が、親子にヒアリングの上で選書しお届けしました。
2023.2.23	スペシャルトークライブ 養老孟司さん×阿川佐和子さん	27名	<b>養老孟司さんと作家・阿川佐和子さん</b> が贈る、保護者へのメールとメッセージ。身近な大人以外の人との出会いから「感じ、気づく」体験の大切さ。自然の中に身を置くことの大切さ。子どものうちに幸せを感じ「人生は生きるに値する」ということを理解することの大切さなどについて語りました。
2023.6.17	火と水と木と土と	8名	<b>アウトドアの達人・寒川一さん</b> に導かれ、三浦半島の大楠山系の自然豊かなフィールドをトレッキングしながら、生きるための“逞しさ”と“優しさ”そして、いざという災害時にも役立つスキルを手に入れる親子プログラムを開催しました。
2023.7.22	森にこころを澄ませば	19名	故C.W.ニコルさんが30年以上の時をかけて再生させた美しい <b>アフアの森</b> の中で、風が吹き抜ける自然の声に耳を傾けながら、こころを澄まし、子どもたちが内に秘めた『センスオブワンダー』を発見する旅。 <b>養老孟司さん</b> と一緒に感性と気づきを深めました。
2023.8.5	自然のリアルとファンタジー	12名	<b>写真家・若木信吾さん</b> が子どもたちに伝えたいのは、上手に写真を撮るスキルより、撮ることの楽しさや思いがけない目線との出会いの面白さ。自然の美しさや驚きを写真を通じて再発見しました。このプログラムは <b>ソニーPCL株式会社</b> さまの協力をいただきました。
2023.8.25	会話する音 ハッピージャム	20名	<b>ジャズピアニスト・佐藤允彦さん</b> と一緒に作成した自作パーカッションを使っの、ジャム・セッション。出会ったばかりの仲間との一体感や、音で会話することの楽しさを味わいました。一流プレイヤーのジャズセッションも堪能しました。

2023.9.16～ 9.18	縄文時代にタイムスリップ	9名	子どもたちは、長者原遺跡の竪穴住居に寝泊まりし、自然と密接に関わった縄文時代の生活や太古の人々の知恵に触れ、大地と人のかかわりを肌で感じ、太古と現代、双方のアプローチから「生きる力」を育みました。ナビゲーターは <b>寒川一さん</b> 。
2023.11.19	はじめまして日本のこころ	21名	2年目はさらに一步踏み込み、より深い体験を提供しました。室町時代から伝わる由緒ある能面、鬘帯（かづらおび）、子方用の華やかな装束などに身を包み、日本の伝統と直接繋がる瞬間を味わいました。ナビゲーターは <b>辰巳満次郎さん</b> 。
2024.3.2～3	太古の海の神秘	26名	幼少期から化石に魅せられ続けてきたという <b>古生物学者・平山教授</b> の指導のもと、早稲田大学研究室での様々な化石を前にした座学と、メガロドンをはじめ600万年前の海洋生物の化石が見つかる発掘現場でのフィールドワークを行いました。
2024.6.16 / 9.8	縄文タイムトラベル トレーニング編	14名	縄文キャンプのためのトレーニング編。鎌倉の山で開催したこのセッションでは、火を熾し、水を汲んで浄水し米を炊く、木を使って道具を作るなど、基本的な自然との共生スキルを、 <b>寒川一さん</b> の指導のもと、親子で楽しく学びました。
2024.7.28	パワーボイスシンフォニー	22名	<b>シンガーソングライター・高橋あず美さん</b> の「奇跡」と称される、その驚異の歌声を間近に体験。ワークショップでは、高橋さんと共に歌い、参加者自身が音楽を通じて自分の感情を表現しました。
2024.9.28-29	森とうたう in アファンの森	9名	光豊かな、風が通る美しい <b>アファンの森</b> で過ごしたアコースティックな2日間。 <b>高橋あず美さん</b> の歌声と柔らかなギターの音色が、森と調和する様子を楽しみ、親子で一緒に歌を作り、唄い、心を癒すひとときを過ごしました。

## 2) オフィシャルサイトのWEBコンテンツ「&E TALK」と「&E AT-HOME」の更新

### ◆ &E TALK

当法人の代表・三枝亮がゲストを迎えて子どもの成長や感性について語り合う対談・インタビュー・コラムを掲載。プログラム体験の背景や専門家の視点を可視化し、保護者の共感を得るためのコミュニケーションツールとして企画・制作しています。

2024年8月～2025年3月の活動

- ・脳神経科学者・**小泉英明さん**と作家・**阿川佐和子さん**によるスペシャル対談実施
- ・イリュージョニスト **HARAさん**と阿川佐和子さんによるスペシャル対談実施（公開は4月）

### ◆ &E AT-HOME

「本物の体験”をご家庭でも」をテーマに、子どもの感性を育む音楽・読書・木のおもちゃなどを紹介する記事コンテンツです。

2024年8月以降の更新

- ・クラシックソムリエ・**田中泰さん**による新コーナー「音楽と文学のマリアージュ」連載開始

## 2. &Eメンバー（年会費無料）会員登録数

2025年3月31日時点

会員数 : 496家族

子どもの登録数 : 588名



## 3. メールマガジン登録数（&E会員含む）

2025年3月31日時点 4604名

## 4. トピック

### ◆ 2024年度 グッドデザイン賞受賞

「SAYEGUSA &EXPERIENCE」の取り組みが、2024年度グッドデザイン賞（主催：公益財団法人日本デザイン振興会）を受賞しました。



### 1) コンセプトと評価の背景

- 我々が大切にしているのは「特別な人」「特別な場所」との出会いを通して生まれる“真の体験”です。この体験は、自己肯定感・創造力・共感力・洞察力・自己発見力の5つの感性を育みます。少人数制にこだわり、0歳～12歳の子どもとその保護者に向けて提供しています。
- ナビゲーターとして登場する「個性豊かな大人たち」との出会いは、家庭や学校とは異なる視点や刺激を与え、子どもたちの好奇心や考える力を引き出す一助になっています。

### 2) 審査委員による評価コメント（原文）

「子ども達の日常にデジタルデバイスが浸透すると共に、自然環境でのフィールド体験、異世代との知恵や知見による交流が減少し、子どもの感性が刺激を受ける場の偏りが課題になって久しい。体験による刺激が感性を広げ伸ばし、その先に文化的な視野が芽生えたとすると、子ども達には学びの前に多くの体験による気づきの獲得が必要だろう。150年に渡って子ども服を銀座の地で販売してきた老舗企業が、今の時代に提供すべき真に必要な「身につけるべき上質なモノ」を問い、モノからコトへと内容が広がることは、時代の変化に呼応して本質をとらえた腹落ち感がある。プログラムの価値を子どもだけでなく親にも共有し、親子の視座に変化をもたらす仕組みも良い。」

## 5. 「SAYEGUSA &EXPERIENCE」の運営移行

2024年10月1日、「SAYEGUSA &EXPERIENCE」の運営は、株式会社ギンザのサエグサから、一般社団法人サエグサ&エクスペリエンスへ移管されました。

## 6. 決算報告 <最終頁に掲載>

第1期:令和6年8月14日から令和7年3月31日まで

## 7. 次年度に向けての展望

「SAYEGUSA & EXPERIENCE」は、2025年度も「本物の体験を通じて、子どもたちの感性と生きる力を育む」という使命のもと、さらなる深化と拡がりを目指します。次年度の主な方向性は以下の通りです。

### 1) プログラム展開の深化と拡張

- 0～4歳向け体験の充実を通じて、より早期からの感性教育を実現します。五感や身体の発達段階に寄り添い、“はじめての本物の体験”を家族で共に楽しめる設計を検討中です。
- 5歳～小学生対象のプログラムでは、新たなテーマ・フィールドの開拓に加え、**関東以西（関西・中部・中国地方など）での実施予定**。地域性を生かした体験づくりに取り組みます。
- すべてのプログラムにおいて、「感性の入口となる体験」「自ら気づき、感じる余白のある時間」の創出を大切に、子ども一人ひとりの可能性に寄り添います。

### 2) 事業基盤の安定と持続可能な成長

- 地域、研究・学術機関、企業との**協働・パートナーシップ**を導入し、多様なリソースと価値観が交わる体制を構築。体験の質と運営の持続性を高めていきます。
- 会員制度の進化を通じて、有料メンバーへの特典強化、限定体験、情報提供の質向上を図り、**リピーターとファン層の満足度向上**を目指します。

### 3) WEBコンテンツの充実とコミュニケーションの進化

- 「&E TALK」では、感性・教育・芸術・科学の領域を横断する対談シリーズを継続。多様な視点から子どもたちの未来をともに考える、社会との対話の場を広げていきます。

2025年度も、子どもたち一人ひとりの“心の温度”に触れる体験をていねいに、誠実に、創造してまいります。

## 8. 法人概要

名称：一般社団法人サエグサ&エクスペリエンス

設立日：2024年8月14日

所在地：〒104-0061 東京都中央区銀座3-5-12

目的：子どもの感性と創造性を育む「真の体験」の提供を通じて感性教育を実施し、未来社会の貢献者を育成すること

主な事業内容：体験プログラムの企画・実施／WEBメディアの運営／感性教育に関する研究・発信

役員（2024年度 現在）： 代表理事 三枝 亮

理事 森 茂

理事 澁江 摩樹

監事 本田 浩子

以上  
2025年7月吉日

お問い合わせ  
SAYEGUSA & E 事務局  
Email: [support@sayegusa-e.org](mailto:support@sayegusa-e.org)

※本レポート内の文章・画像等の無断転載はご遠慮ください

### 貸借対照表

令和 7 年 3 月 31 日 現在

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
<b>I 資産の部</b>			
<b>I 流動資産</b>			
現金・預金	3,884,898		3,884,898
未収会費	99,600		99,600
流動資産 合計	3,984,498	0	3,984,498
<b>資産 合計</b>	3,984,498	0	3,984,498
<b>II 負債の部</b>			
<b>I 流動負債</b>			
預り金	35,542		35,542
流動負債 合計	35,542	0	35,542
<b>負債 合計</b>	35,542	0	35,542
<b>III 正味財産の部</b>			
<b>I 基金</b>			
基金	2,000,000	0	2,000,000
<b>2 一般 正味財産</b>	1,948,956	0	1,948,956
正味財産 合計	3,948,956	0	3,948,956
<b>負債及び正味財産合計</b>	3,984,498	0	3,984,498

### 正味財産増減計算書

令和 6 年 8 月 14 日から 令和 7 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
<b>I 経常増減の部</b>			
<b>(1) 経常収益</b>			
①参加費収入	938,600	0	938,600
②寄付金収入	14,031,040	0	14,031,040
③受取利息	2,110	0	2,110
経常収益 計	14,971,750	0	14,971,750
<b>(2) 経常費用</b>			
①事業費			
プログラム開催費	1,633,252		1,633,252
業務委託費	7,678,469		7,678,469
②管理費			
管理手数料	2,118,000		2,118,000
その他諸経費	1,593,073		450,000
経常費用 計	13,022,794	0	13,022,794
当期経常増減額	1,948,956	0	1,948,956
<b>当期一般正味財産増減額</b>	1,948,956	0	1,948,956
一般正味財産期首残高	0	0	0
一般正味財産期末残高	1,948,956	0	1,948,956
<b>II 基金増減の部</b>			
①基金受入額	2,000,000	0	2,000,000
当期基金増減額	2,000,000	0	2,000,000
基金期首残高	0	0	0
基金期末残高	2,000,000	0	2,000,000
<b>III 正味財産期末残高</b>	3,948,956	0	3,948,956